

海田町における土石流災害の調査

- 7月14日海田町町役場の依頼により、町内で発生した土石流災害について調査を行った。
- 調査参加者：工学研究科 土田孝教授，橋本涼太助教，鈴木大夢（M2），岩井鉄平（M2），末岡知紘(M1)，鈴江俊介(B4)
- 調査箇所
 - 1)春日神社裏で発生した土石流とその被害
 - 2)三迫川上流で発生した土石流とその被害
 - 3)奥之谷川上流で発生した土石流とその被害



春日神社裏の溪流



谷出口の幅は5m、深さは約2m程度であった。発生土砂はまさ土であると考えられる。もう一つの溪流からは土砂流出は確認されなかった。

春日神社裏の土石流による家屋の被害状況



土石流は住宅に大きな被害を与えていた。幸い亡くなられた方はいなかったということであるが、広島県の過去の同程度の規模の土石流を考えると、人的被害が発生してもおかしくない規模の土石流であった。土石流の規模は5000m³以上と推定される。



春日神社参道の被害



土石流は春日神社の参道の方に流下したため、参道は大きな被害を受けた。



参道の最上部にあった施設はほぼ完全に破壊されている。

春日神社の本殿は参道とずれた位置にあったので被災を免れた。



奥之谷川の土石流と奥之谷川ダム



奥之谷川ダムは広島県が建設中であり、高さは完成時の70%であった。しかし、本ダムの背後は70%の高さまで満砂状態であり、土石流を補足するという砂防ダムの機能を発揮していたことが確認された。

本ダムの働きがなければ、下流に大きな被害が発生していたと推定される。

調査結果の報告と質疑応答



左から西田町長，土田教授，橋本助教

西田祐三町長、胡家副町長、久保田建設部長など町役場の幹部の方に調査結果について報告し、今後の海田町の災害対応についての質問に対して見解を説明した。